

(別紙2－4)

令和6年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 親和会	代表者	山崎幸男	法人・ 事業所 の特徴	利用時間・サービス内容を決めることなく、通い・泊り・訪問を利用者様のニーズに合わせ柔軟に対応している。 在宅を重点に置き、家族と疎遠にならないよう調整を図りながら、家族の休息も取り入れるよう泊りサービスを提供し、利用者様が穏やかに生活できるようなサポートを心がけている。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所 恵みの里 眺望	管理者	中村小夜子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	5人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	今後も四半期ごとに自己評価を行い、より良いサービスに繋げるよう、努める。	8月と12月に自己評価を行い、より良いサービスにつなげて、職員の意識向上に務めた。	スタッフ同士情報共有し、日常的な運営に努めている様子は見えている。職員全員が同じ目標に向かって取り組んでいると思われる。	全スタッフと情報共有が図れるように伝達を密に行う。 特に新規の利用者様との関わりには、時間をかけて関わることができるように努める。 利用者様の「～したい」の実現のため、思いの共有が見える化していく。 半期ごとに自己評価を行い、より良いサービスに繋げるよう意識向上に努める。
B. 事業所の しつらえ・環境	利用者様と共に明るく快適な環境づくりに取り組む。	利用者様と共に創作活動をし、季節を感じる展示・飾り付けになるような雰囲気作りに努めた。	季節を感じる室内の飾り付け、誕生会の食事、ドライブ、レクリエーション等利用者様の日々の行動に変化を与えて、認知症予防にもなっていると思う。 写真を見れば、和気あいあいと居心地の良い空間になっている。	利用者様と共に、居心地の良い空間になるよう明るく快適な環境づくりに取り組む。 誰でも入りやすく、何でも相談できる事業所作りに努める。

C. 事業所と地域のかかわり	地域貢献活動はベルマーク集め、雑巾の寄付を行う。 外部からの交流もその都度状況をみて出来る限り受け入れていく。	山田小学校だけではなく、第 1・第 2 保育園・きずな保育園に雑巾を届けることができた。きずな保育園は七夕、第 1 保育所は長寿を祝う会で演技を披露してもらった。 郷土芸能の慰問を受け、利用者様の生き生きとした表情もみられ交流をすることができた。	職員の挨拶は良く、明るい雰囲気を感じられるので、相談しやすい。 雑巾の寄付は、利用者様の真心を感じられるので、継続していただきたい。園児との触れ合い、郷土芸能の慰問も継続して取り組んでいただきたい。	地域貢献活動として、ベルマーク集め・雑巾の寄付を継続して行う。 外部との交流は、その都度状況をみて交流していく。 職場体験等の受け入れや、地域交流の取り組みを図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染対策を考慮し、職場体験等の受け入れや、地域の行事に出掛け、交流を図る。	中学生の福祉体験を受け入れ、利用者様の介助やレクリエーションを一緒に楽しむことができた。 お祭り見学に行き、各団体と交流を持った。	各小学校や保育園も地域交流の取り組みを奨励していることから、お互いが繋がりを持って交流できているのは素晴らしい。 中学校の福祉体験も利用者様も楽しんでいることから、今後も依頼があれば受けた方がよい。 地域活動も、近年は感染対策を考慮しながら交流しなければならないので、様子見し選択しながらでよい。	利用者様を取り巻く環境の把握に努め、情報共有を密に行う。 浮かび上がった課題等を、ミーティング等で共有・検討を行い、必要に応じて関係機関に繋げて行く。
E. 運営推進会議を活かした取組み	眺望アピールではなく、家族、近所の介護に関する悩み等を聞いた場合に介護について話をする。 委員と一緒に地域貢献活動に参加する。	介護に関する悩みを聞いた場合は、眺望のサービス利用について声がけし、利用に繋がった。 小学校の窓拭きの予定だったが、新校舎への移転のためできなかった。	会議は、自由な発言や話題提供も多く、有意義な会議状況である。 地域貢献活動も、事業所及び委員と一緒に行動できているのがよい。 活動もその都度相手側の事情や条件に応じて実施している。	運営推進会議での内容や、利用者様や家族、地域からの要望等を職員に周知し、一緒に考え、地域に開かれた運営が出来るようにしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	年間計画の防災訓練の実施。 災害発生時に必要な備品の見直し、点検を行う。	防災訓練の実施をした。 災害発生時に必要な備品の見直し・点検を行った。 備蓄品を切らさないよう継続して管理している。	避難訓練、備蓄品の点検など、しっかりと実施していると思う。 施設は高台にあり、津波災害や土砂災害は心配ないが、利用者様の送迎や、職員の出退勤の時間帯などの避難方法を確約していただきたい。 今の時代、災害がどんな形でどこに起きるか想定が難しいことなので、現状の訓練や備蓄品の管理でよいと思う。	潤滑な避難・連携が図れるよう防災訓練を実施する。 災害発生時に必要な備蓄品を切らさないよう管理・点検する。 送迎時などの避難場所・避難方法を的確に把握できるように、2 カ月に 1 回再確認の場を設ける。